

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190201020), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホームすぎの子家族 のぼら(1階)), 所在地 (札幌市東区伏古6条4丁目1番18号), 自己評価作成日 (平成29年8月24日), 評価結果市町村受理日 (平成29年11月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流センターでのサークル活動に参加し、社会参加と地域交流をしている。外出の機会を持つ、プログラムを工夫して、楽しみのある生活を送っていただく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2016\_02\_2\_kihon=true&JigyosyoCd=0190201020-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年9月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすぎの子家族は3ユニットの事業所で、開設から2年目を迎えている。事業所は住宅街にありながら大手スーパーや食堂街、銀行、郵便局などが近隣にあり、生活の利便性が高い環境にある。さらに、建物内には地域交流センターとクリニックが併設されていて、地域交流センターのサークル活動には利用者も積極的に参加し、気分転換や五感の刺激の機会として活かしている。2ユニットでは共用型デイサービスも開始していることから、利用者と地域住民とは自然な形で心にも体にも優しい交流が生まれている。開設時に職員と共に作られた独自の理念を基本に、職員は内部・外部研修で日々研鑽し、資質の高い介護に努め、利用者本位の生活を支援している。その内容は生活記録にきめ細かく記載され、家族への連絡や報告に活かし信頼に繋げている。同区にある運営母体の医療機関とは、運営、研修、人事、医療面で協力体制が図られ、利用者、家族の安心に繋げている。管理者は職員と共に工夫を凝らして、カラオケ大会・卓球大会・映画鑑賞会など、3ユニット間の企画による相互交流を図り、利用者同士が心を通わせるなど、楽しい事業所作りに取り組んでいる。管理者は、運営や管理について職員と話し合うなど、職員が働きやすい環境作りを努めている。職員はチームケアの下に利用者の自信と安らぎや満足を感じられるサービスに取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の構築を共に行い、各ユニットに掲示している。	開設時に職員と共に事業所及び各ユニット別の理念を策定し、各ユニットに掲示している。日々の忙しさに、つい自分中心の目線になる時、自分達で作り上げた大事な理念に立ち戻り、ケアサービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいている。	併設された地域交流センターで利用者は、サークル活動に積極的参加し地元の人々と交流を深めている。町内や商店街のお祭り、公園の清掃活動にも地域の一員として参加している。事業所は介護相談の電話や訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から相談があった際に、状態をお聞きして支援に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を参考に、サービスに反映している。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、利用者の状況や事業所の活動報告、職員の動向、防災訓練、共用型デイサービスの運用などを議題に掲げ、評価、助言、要望を受けて、運営に反映させている。今回から議事録を全家族に配布する。	より一層の意見の活性化を図るために、タイムリーかつ関心と呼ぶ議題を工夫したり、知識を得る場として勉強会を開催するなど、運営に活かせる会議を期待する。更に、外部評価結果や事故報告、ヒヤリハット等も報告し、透明性を持った会議運営に努めることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に連絡を取り合っていないが、不明な点がある時は確認をとっている。	事業所での共用型デイサービス稼働に関する課題や利用者の家族からの問い合わせなどに関して、随時相談し指導や意見を得ている。利用者の自然骨折時の対処方法を行政に確認するなど、担当窓口とは連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の夜間の施錠は行っているが、ホーム全体を自由に行き来して頂いている。	身体拘束の弊害については、マニュアルを整備し、外部・内部研修などを取り入れ学ぶ機会を得ている。利用者の状況に合わせ、職員間で話し合いながら、利用者が穏やかに過ごせる生活に取り組んでいる。転倒防止のために、センサーマットを使用する際は、家族にリスクを説明し、実施記録を作成しケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者がユニットに入り、職員と一緒に介護を行っている。その際に注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	学ぶ機会を持っていない。年度内に実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に情報提供を行い、その際に意見を伺っている。	職員に直接、希望、要望を表せる利用者が多いので、家族に相談しながら、実現に向けて対応している。家族には毎月、担当職員から利用者の暮らしぶりを写真と共に手紙で報告し、家族の理解に繋げている。家族の来訪は多く、誕生日を始め、年中行事にも参加を促しながら要望、苦情等を聴く場面作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時に、人事考課面談時に機会を設け、必要に応じて反映させている。	管理者は職員と利用者が馴染める環境作りに配慮しながら、各ユニットの人員配置に関しては、職員からのアドバイスを参考に検討するなど、職員の意見を十分に聴き、活かしている。毎月のホーム会議や年2回の個人面談時にも職員の意見や提案を取り入れている。理事長の訪問も多く、直接話す機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ、各自の生活状況を考えてシフトを作成し、労働時間についても確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	必要な資格取得のためのシフト調整を行っている。研修開催の周知と、参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム合同の研修会を企画し、交流と質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は出来るだけご本人の生活ペースを大切にしながら、ご本人の要望をお聞きして対応していた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が大切にしているもの、をお聞きして、確認を取りながら実践することを続けてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要なサービスを本人、ご家族と確認して支援する。体調変化や介護度の変化によって、随時話し合いをして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の役割、出来ることを考えて、実践できる場を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の想いを大切に、何かを考える時にご家族の意見をお聞きして、共に決定していくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可を得られた場合に、なじみの方との面会をして頂いている。出来るだけ、ご本人が馴染みにしていた美容室を利用する。	本人の希望を考慮し、家族の意見も聞きながら、友人、知人の来訪を歓迎している。馴染みの美容室や墓参りなど、職員、家族が支援して関係継続に努めている。外出が困難な利用者には、夕食時に暖簾を掛け居酒屋の雰囲気を出し、料理に加えて酒を嗜むなど、馴染みの暮らし方を保てる支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・おやつ以外でも一緒に過ごす場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴をお聞きして、今までの暮らし方を参考に、出来るだけご本人の想いを基本にしている。	利用者が日々発した呟きを個人記録に書き留め、情報を職員間で共有し、思いの実現やケアの充実に努めている。思いを言葉に表せる事が出来る利用者が多いので、職員は聞き取った希望、要望を叶える様に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握、他事業所からの情報の把握をし、フェイスシートに追記している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サマリーを作成し、状況把握に努めているが、更新が遅れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議時にアセスメントを行い、担当者以外の意見も反映している。	利用者個々の担当職員は毎月モニタリングを行い、知り得た情報と利用者、家族の要望を基にリーダーとプランの見直しを図り、ユニット会議にて職員間で話し合い検討している。アセスメントは3か月毎に行い、定期見直しは3～6か月としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人に協力を求めて、出来る範囲で支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流センターでのサークル活動に参加し、交流と社会参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医での受診を継続している。	入居前の受診状況を把握し、利用者、家族の希望するかかりつけ医への通院は殆ど職員が支援している。運営母体である協力医療機関を主治医とした場合は月2回の往診対応となる。受診記録・往診記録にて家族、看護師、職員は情報の共有を図り、健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に情報を伝えて、必要な医療に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、病院相談員と連絡を取っているが、特に関係づくりは行っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に文書で説明を行っている。また体調に応じて、看取りの指針を改めて確認している。終末期についての地域とのチーム支援は取り組んでいない。	入居時に重度化に関する指針を説明している。現在、説明後の同意書を作成中である。状況変化に応じて、段階的に意思確認を行っている。まだ看取りの経験は無いが、家族、医師、看護師、介護職員で方針の統一図り、終末期支援に取り組める様に、事業所はターミナルケア研修を年内に計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施している。年1回は地域の方と共に実践をしている。	今年度は9月に昼想定避難訓練を実施している。今後も、12月と3月に予定しており、地域住民の参加を依頼している。現在、非常災害マニュアルを作成中である。消防用設備の点検や救急救命訓練も定期的に行っている。飲料・食料の備蓄も確保している。	全員が訓練を経験出来る取り組みとして、訓練実施記録に毎回参加者名を記載する事が望まれる。火災訓練に加えて自然災害訓練も定期的に行い、さらに寒冷期の防寒用備蓄品の充実を図るなど、防災への強化を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や子供に対する言葉遣いはしていない。名字で呼ぶことを基本にしているが、その方にとって名前と呼ぶこともある。	定期的に接遇マナーを勉強している。職員は自分に置き換えて不快に感じることは利用者にも行わない様に努めている。言葉使いや名前の呼び方、対応にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる場面を多く持つように心がけている。着替え・食事・おやつなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をベースにして、1日の組み立てを考えている。その際に、本人の希望する行動が出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、随時美容室、理容室への利用を声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に応じて、食事の準備、片づけを共にやっている。	夕食の献立、食材は宅配食で、それ以外は各ユニットで、自由に献立や買い出しを行い、利用者の要望や嗜好に応じている。食材が間に合えば、夜は居酒屋の気分を味わったり、外食も多く企画して、食事への関心を引き起こす工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適量を考えて、水分補給もゼリーなど摂取しやすい形態にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施し、研修もやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認して、出来るだけおむつを使わないように支援している。	職員はトイレでの排泄を基本と考え、利用者の排泄パターンを把握し、表情や動作を見極めながら声掛けや誘導を行い支援しているが、殆どの利用者は自分の意思でトイレでの排泄が行われている。羞恥心や不安への配慮として、出来る限り同性介助に取り組んでいる。骨折や眠りを阻害しない支援として、衛生用品を使用しベット対応の場合も環境因子を丁寧に確認して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ではなく、生活の中で改善できるように		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の予定をお聞きしながら、支援をしている。	毎日入浴出来る体制を整えている。職員は入浴を楽しんで欲しいと、利用者全員が一番風呂に入れる様に毎回浴槽を洗っている。好きな入浴剤を入れたり、音楽をかけたり、時には職員と二人きりで話し合うなど、多くの利用者は入浴の時間を楽しんでいる。入浴が苦手な利用者には、タイミングや職員を替えるなど工夫して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休憩時間を持っている。夜間は生活ペースを考えて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録を共有し、薬剤師の説明を聞いて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみがあるように、役割を持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、戸外に出る機会を持っている。また希望をお聞きして、外出行事を実施している。	事業所では、利用者が元気なうちに出来るだけ外出を実現したいと考え、利用者の意向に沿って外出や外食の行事を計画したり、日々の暮らしの中でも、買い物やゴミ捨て、デイサービスの送迎時にも一緒に出掛けるなど、気分転換やストレス解消に努め、本人の意欲や自立を保つ支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方もいる。買い物に行った時に、ご本人が自分で支払いをする機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望した時に、電話をする支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日温湿度の確認を行い、色彩に配慮している。	各ユニット名に合わせた色を基本色調とした内装は明るく、インテリアも手作りのカレンダーや人形、生花などを飾り、各々に個性を活かしながら、季節を感じる彩りを工夫している。台所は、皆で調理準備が出来る程の広さがあり、リビングも食事を楽しむ食卓とテレビ鑑賞や雑談が出来るソファを配置して、ゆったりと寛げる空間となっている。浴室、トイレ、洗面台も使い易く衛生的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングを分けており、好きな場所で過ごせるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具を持ってきていただいている。	居室入口の飾り棚には、利用者の個性を表す品々が飾られ、表札も職員手作りで温かみを感じられる。居室には調度品や生活用品が持ち込まれ、家族写真や手作り作品などを飾り、自分の部屋を作り上げている。各部屋には、クローゼットと温湿度計が設置され環境整備が図られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車いす使用であっても十分なスペースを確保している。		